

第２回ＡＲＦ宇宙セキュリティワークショップ
中山外務副大臣挨拶
(１０月９日(木) ９時３０分, 於: 三田共用会議所)

ご列席の皆様,

- 日本へようこそ。２０１２年１２月に、ベトナムとオーストラリアとの共催で第１回ワークショップがベトナムにおいて開催されてから約２年の月日が経ちました。その間も各国の宇宙活動は益々活発化しています。
- 反面、衛星やデブリの増加により、衛星との衝突等のリスクも日に日に増しており、宇宙空間の安全かつ持続的な利用の確保の重要性が一層高まっています。
- そのような中、本日、２４のＡＲＦメンバーから、約８０名の政府関係者や有識者の方々の御参加を得て、第２回ＡＲＦ宇宙セキュリティワークショップを開催することは、時宜にかなったものです。御参加いただいた皆様、共催国の米国及びインドネシア、そしてこの会合の準備、運営に御協力をいただいているオーストラリアに深く感謝申し上げます。
- 安倍総理は、国際協調主義に基づく「積極的平和主義」の立場から、地域及び世界の平和と安定の確保にこれまで以上に積極的に寄与していくことを表明しました。変化する安全保障環境の下では、一国のみでは平和を確保することは出来ません。「積極的平和主義」の下、ＡＲＦメンバーとの連携は一層重要となっています。宇宙セキュリティも、例外ではありません。
- 今回のワークショップでは、アジア大洋州地域において宇宙利用がいかにより多くの便益を提供しているか、宇宙空間の安全かつ持続的な利用を確保するために、我々として何をしなければならないのかといったことを共に議論し、共に考えていただきたいと思います。このワークショップが、ＡＲＦが推進する信頼醸成や予防外交の観点からも重要な機会となることを期待します。

(宇宙空間のリスクに関する現状認識)

- 現在、地球の周りを回っている３５００個以上の衛星は、通信、

放送、測位（GPS等）から自然災害監視まで、我々人類の社会・経済活動と密接不可分なものとなっています。また、外交・安全保障面に目を向ければ、様々な軍事活動も通信や測位等の各種宇宙アセットと密接不可分なものとなっています。

- これらの衛星等の宇宙アセットが、安全かつ持続的に利用できなくなった場合、我々の社会・経済活動が脅威にさらされることとなり、また、国家の安全が脅かされることになります。
- 現に、衛星の数が増え、宇宙空間の混雑化が進む中、衛星の衝突事故が発生したり、スペースデブリの数も年々増大しています。またASAT実験は、グローバル・コモンズである宇宙空間にデブリをまき散らし、宇宙空間の安全かつ持続的な利用の大きな阻害要因となります。

（日本の宇宙外交：①国際的なルール作り）

- このような状況の下、我が国は、宇宙の安全かつ持続的な利用を確保するため、次の3点を重視しています。
- まず第1に、デブリの増加、宇宙空間を不安定化させる活動などに国際社会が一致して対応するための、皆の共通理解の元となる国際的なルール作りです。
- 宇宙については、増加する宇宙利用国間の利害の対立から新たな条約は作成されておらず、今後も国際条約の作成には多大な時間を要することは論を俟ちません。
- このような状況の中、今回のワークショップでも紹介があると承知していますが2008年にEUが提案した「宇宙活動に関する国際行動規範」は、法的な拘束力は持ちませんが、宇宙物体の衝突のリスクやスペースデブリの発生を最小化させる上で注目すべきものだと考えます。日本は、宇宙空間の安全かつ持続的な利用の確保のためにこの行動規範が果たす役割は大きいと考え、議論に積極的に貢献し続けています。
- ARFメンバーの皆様にも、是非ともこの行動規範の意義と必要性を御理解いただき、この行動規範が実効的なものとなるよう御協力をお願いしたいと思います。

(日本の宇宙外交：②宇宙をめぐる国際協力の推進)

- 我が国が重視する2つめの点は、「国際協力」です。この広い宇宙空間を効率よく、安全に利用していく上では、各国間の協力が必要不可欠です。
- 例えば、スペースデブリについて、地上に光学望遠鏡やレーダー施設を設置し、宇宙空間の状況を把握することによって脅威を低減する「宇宙状況把握（SSA）」や自然災害の多いアジア太平洋地域で人口衛星を活用した自然災害の被害軽減・予防に向けた取組として日本が進めるセンチネル・アジアは、その一例です。

(日本の宇宙外交：③対話)

- 3点目は「対話」です。宇宙活動について、安全保障・民生双方の観点を踏まえ、各国間で意思疎通をはかり、いかなる協力が可能かを議論する場として、我が国は対話を重視しています。
一昨日（7日）は、EUとの間で初の「日EU宇宙政策対話」を行いました。また、米国との間では、「宇宙に関する包括的日米対話」等の対話・協議の枠組みがあります。
- このワークショップにおいて、ARFメンバーの皆様と対話を行うことも、そのような努力の一環であることは言うまでもありません。
- 以上、我が国の宇宙外交について簡単に紹介いたしました。今回のワークショップでは、今申し上げたような諸点も頭の中に入れていただいた上で、自由闊達な御議論をいただければ幸いです。
- また、明日の午後は、JAXAのつくば宇宙センターの視察があるとお聞きしています。日本の宇宙開発・技術をしっかりとご覧になってきてください。
- 最後に、このワークショップの成功を祈念して、私の御挨拶とさせていただきます。御静聴ありがとうございました。